

■令和 8 年度 第 1 回 大和市地域公共交通協議会 会議録（要約）

日 時：令和 8 年 7 月 2 日（木） 10 時 00 分～

会 場：リンカングループ大和文化センター Room2

出席者：別紙の通り

傍聴者：なし

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

- (1) 【協議事項】「大和市コミュニティバス（のりあい含む）運行内容変更」について
事務局より、大和市コミュニティバス（のりあい含む）運行内容変更について、資料に沿って説明。※（委員（神奈中タクシー））より、補足説明。

—質疑応答—

（委員 A）

- ・減便をして運行の効率化を図ることについて、具体的に現状の乗車率から、どこまで上げたいのかこの資料には記載がない。
- ・収支率を上げたいと説明があったが、収益率を上げるために、減便と運賃値上げをしなければならない状況なのかもしれないが、もう少し資料の中に減便や運賃値上げをする理由や実施後の効果について記載があった方が良いのではないか。
- ・資料がないと、今回の事務局からの説明で、本日の議題について承認をして本当によいのか判断が難しい。また値上げ額については、運賃等協議会で議論するものであるが、運賃値上げ自体は協議会での意見交換も必要。
- ・高齢者パスの年齢を 80 歳以上に設定したことについては、80 歳の部分をこの場でもう少し意見交換をしても良いのではないか。

（事務局）

- ・のりあいを含む大和市コミュニティバスの運行内容について、今回のような大幅な運行内容の変更は初めてとなる。市全体で財政状況が厳しい状況の中で、様々な事業を行っている。またそれぞれの事業が必要だといった状況である。そこでまちづくり総務課が行っている、コミュニティバス事業においても、今後も継続していきたいと強い思いを持っている。その中で、市全体でかかっている経費に着目をして検討があったことも事実である。

そのような状況で、コミュニティバスややまとん GO に関しては、乗車率を平均すると 7 割も満たない結果であることから、今回便数を 3 分の 1 減らす方向性を定めた。

減便と運賃値上げを同時に行うことについては、大和市内の公共交通の公平性といった点を継続的に検討する必要があると考えており、民間路線バスや他市のコミュニティバスの動向を注視しながら、見直しをしていく。

- ・高齢者パスについては、市として「健幸都市やまと」を掲げており、健康で幸せになってほしいということを、我々は目指している。
- ・今回の運行内容変更を協議に諮るにあたって、HP や車内掲示等で市民の方に周知を行った結果、運行内容変更に対して、意見や要望が 12 件ほどあった。内容としては、「運賃の値上げをしないほしい」や「減便をしないほしい」といったものである。また便数については、以前から朝の早い時間帯や夜の遅い時間帯に運行してほしいといった意見を受けていたが、コミュニティバスを運行するにあたって、あくまで日中の移動支援を念頭に事業を開始した旨の説明をしている。
- ・10 月 1 日以降、この内容で運行を開始した後も、運行状況を注視しながら、様々なことを検討する必要がある。その中で、運行を継続させるためにはどうすべきかしっかりと考えながらやっていく。

(委員 B)

- ・現状のやまとん GO 全体の乗車率について。また、やまとん GO における休日の運行便数について、のりあいにおける休日の運行便数は、平日の 6 割程度になっているが、やまとん GO は平日と休日と同じ便数になっている。そのあたりの分析について教えてほしい。

(委員 (事務局))

- ・令和 7 年度の利用者数を見ると、乗車率が 1 番高い地域であっても 7 割に届いていない結果となっており、約 6 割程度となっている。乗車率が 1 番低い地域においては 4 割強となっている。乗車される時間帯は、生活スタイルに合わせて様々であり、均等化されるかは、実施してみなければ分からないところではある。令和 7 年度の乗車率の結果をもとに、効率的に運行をするため、全体の便数を少し減らす結論に至った。
- ・平日と休日の便数については、休日の利用者数は平日と比べて約 1 割下がる程度。あまり平日と休日に差をつける必要はないと判断をした。やまとん GO の深見地域の便数が平日と休日に差がある理由は、市の施設の敷地内で旋回をしているためである。
- ・のろっとの乗車率に関しては、小型のポンチョタイプで運行していることから、乗

車率は非常に高い。特に南部ルートに関しては、高い乗車率となっている。
のりあいに関しては、やまとん G0 同様に乗り残しが発生しているのも事実。乗り残し対策として、今年度の 4 月から、運行車両の 3 台のうち 1 台を大型化した。大型化したことで乗り残しの人数が減ってきている。残り 2 台の大型化に向けても、予算確保に向けて努力していく。

(委員 C)

- ・ 80 歳以上の利用者はどのくらいか。

(委員 (事務局))

- ・ アンケート等の結果から、1 割強程度の方が 80 歳以上で利用されていると把握している。昨年度の利用者が 800,000 人を超えていることから、利用者の全体からすると 80,000 人くらいと捉えている。ただ、実人数の方は多少下がると考えている。
- ・ 高齢者パスの利用にあたっては、事前申請制で電子申請や臨時窓口を設ける等の方法で申請を受け付けようと考えている。受付を開始した段階で見込みがつくと思うので、その都度、運行事業者には報告していく。

(会長)

- ・ 事務局はいただいたご意見を真摯に受け止め、今後の対応をしていただきたい。
- ・ それでは本議題について承認をいただける委員の方は、挙手をお願いします。

<全員挙手>

(会長)

- ・ 議題 (1) については協議が整ったものとさせていただく。

(2) 【報告事項】大和市コミュニティバスのバス停名称変更について

事務局より、大和市コミュニティバスのバス停名称変更について、資料に沿って説明。

—質疑応答—

(会長)

- ・ 本日の議題についてはこれで終了となります。

4. その他 (連絡事項)

(1) 【連絡事項】公共交通の利用促進について

事務局より、公共交通の利用促進について説明。

(事務局)

- ・今回 10 月 1 日より、いろいろな見直しを初めて行っていこうとしているなかで、利用者の動向はしっかりと検証していかなければならない。またそのなかで、乗車率の低い時間帯等が発生すると考えられるが、そういったところの利用促進を図っていかなければならない。コミュニティバスのみならず、鉄道や民間路線バス含めて利用の促進をしていきたい。

福祉有償運送に関しましても、様々な移動支援という意味では、同じ課題と考えていかなければならないので、今後の協議会においても、委員皆様のご意見をいただきたい。引き続き、公共交通の今後の在り方というのを我々と一緒に考えていただけたらと思う。

(委員 D)

- ・今後の話というところで、今回の議題についてもこの場で決める内容にしては、事前に協議をする機会が少なかったと感じる。様々な時間的事情もあった中だと思うが、今後の交通については、もう少し中長期的な計画を提示するべきである。来年度以降も手を加えていかねばならないことも出てくると思うので、今後は事前に議論をできる場を設けてほしい。

5. 閉 会